

サッカー経験者のフットサル実施についての研究

A study on former soccer players' participation in futsal

1K08B167-0

林 洋佑

主査 松岡 宏高 先生

副査 石井 昌幸 先生

【背景】

フットサルはルール、使用するボール、そしてコート大きさにサッカーとの違いがあるが、もともとサッカーを起源として生まれたスポーツである。我が国のフットサルの歴史は浅いが、その参加者人口は増え続け、このうちサッカー経験者が占める割合は高い。これまで、フットサルやサッカーに関するさまざまな研究が行われてきたが（須田、2004）、特にサッカー経験者に注目し、彼らのフットサル実施について調査した研究はほとんど見られない。以上のことからサッカー経験者のフットサル実施について研究するに至った。

【目的】

本研究の目的は、サッカー経験者のフットサル実施頻度、フットサル実施に影響を与える要因、フットサルの実施動機、調査対象者のサッカー経験、そして調査対象者の属性を明らかにすることである。さらに、フットサルの実施頻度、サッカー経験そして調査対象者の属性がフットサル実施に影響を与える要因とフットサルの実施動機に対してどのような関係性を持っているか分析する。

【方法】

本研究では、①男性、②現役4年制大学生、③高校在学時に部活動またはクラブチームでサッカーの実施経験があること、そして④大学で体育会のサッカー部に所属していないことの4つの条件全てを満たした者を対象に、無記名調査票にて調査を行った。調査は対象者に質問紙を手渡しし、その場で記入してもらった。2011年11月26日～12月3日にW大学、H大学、そしてM大学において、調査を行い、計52部を回収した。本調査には①フットサルの実施頻度、②フットサル実施に影響を与える要因、③フットサルの実施動機、④調査対象者のサッカー経験、そして⑤調査対象者の生活状況に関する5つの質問項目を用いた。調査から得られた結果の集計および分析には、PASW Statistics18を用い、検討内容に応じて平均値の比較クロス集計分析を行った。

【結果】

調査の結果、現在のフットサル実施頻度で8名（15.4%）が「全く行っていない」と回

答したが、今後の実施頻度の希望では「全く行わない」と回答した者はいなかった。その他、統計的な有意差が見られたものを以下に示す。

フットサル施設までの距離が近いことに、高校時代のサッカーのポジションがFWだったグループはDFだったグループよりも影響を受けやすいとことが明らかになった。1か月のお小遣い（自由裁量）が60,001円以上のグループは0から30,000円のグループ、30,001円から60,000円のグループよりも試合展開やプレーを通じて、興奮や喜びを得ることがフットサルの実施動機に繋がりがやすいことも確認された。また、フットサル、サッカーのチームに所属しているグループは所属していないグループよりも体型を維持・改善することがフットサルの実施動機に繋がりがやすいということが明らかになった。さらに実施頻度において現在と今後、共に、高頻度でフットサルを実施する（したい）グループは低頻度グループ、非実施グループよりも個人またはチームとして成長することがフットサルの実施動機に繋がりがやすいことが示唆された。

【考察】

本研究では、サッカー経験者のフットサル実施頻度、フットサル実施に影響を与える要因、フットサルの実施動機、調査対象者のサッカー経験、そして調査対象者の属性を明らかにすることであった。分析の結果、今後の実施頻度希望において「全く行わない」と回答した者がいなかったことから、フットサル市場に潜在的な層があることが推測される。ただし、ポジションの差や1か月のお小遣い（自由裁量）の差によるフットサル実施の意思決定の違いが確認されたが、これについてはその他の要因も関係している可能性があり、ここで結論付けるのは難しい。

実施頻度において現在と今後、共に、高頻度でフットサルを実施する（したい）グループは低頻度グループ、非実施グループよりも個人またはチームとして成長することがフットサルの実施動機に繋がりがやすいことが明らかになったが、個人またはチームとして成長する喜びや達成感が高頻度の実施に繋がっているとも考えられる。